

茶畑ソーラーで静岡茶を元気に！

茶エネ「抹茶」プロジェクト

資料作成者：株式会社流通サービス

(株)流通サービス の取り組み

玉露・抹茶の生産と海外需要について

1. 日本人の茶離れと世界の需要
 - 1) 我が国におけるお茶生産の位置づけ
リーフ茶離れと、ペットボトル販売増により低価格の茶需要増、その為茶価格低迷し、耕作放棄地が増えている。
 - 2) お茶の輸出は2019年が147億円、2020年は162億円と10%以上伸びている。
輸出量の55%は抹茶を中心とする粉末茶で中でも有機茶に人気があり、今後も伸びて行くと予測される。
2. (株)流通サービスが取り組んでいる解決方法
 - 1) 高品質てん茶を作る為、棚掛け遮光栽培
 - 2) 遮光用品種への植え替え
 - 3) 海外の農薬基準に適合する為、有機栽培への転換。(有機JAS認証取得)
 - 4) 外部認証(FSSC22000取得中)
 - 5) サステイナブル
3. 営農型発電設備設置と、てん茶にするメリット

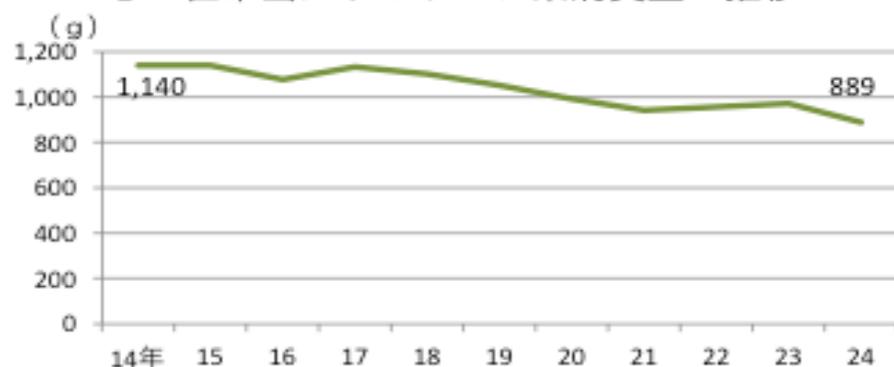
日本の茶離れと世界の需要

- ここ数年日本国内の緑茶(リーフ茶)の需要は減少し茶値も衰退している。そのため。離農者か後を絶たない。耕作放棄地の拡大している。
- 海外では緑茶ブーム(抹茶)が起こっており需要が伸びている。
- (株)流通サービスは早くから市場の変化に対応する対策を行っており、現在海外に向けた生産拡大を目指している。

3 お茶の消費・需給動向

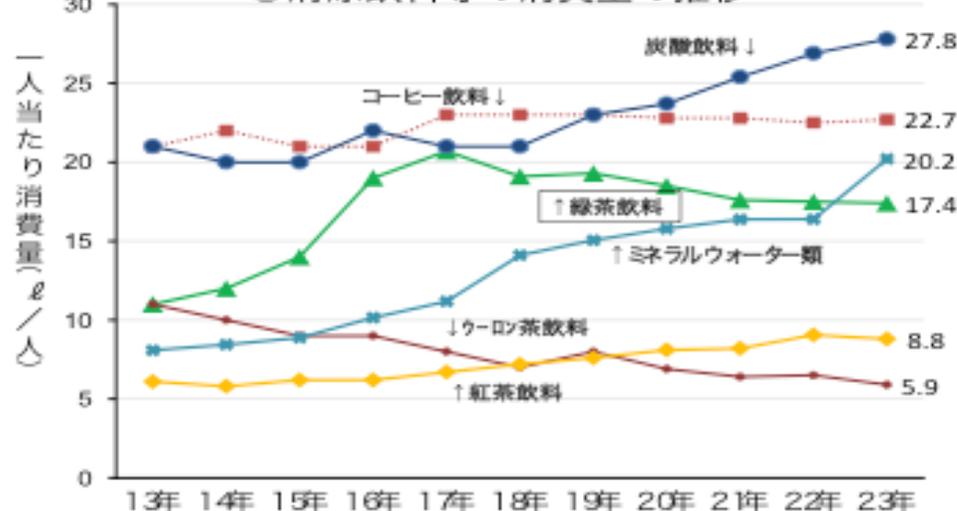
- 緑茶（リーフ茶）の消費は減少傾向で推移。ペットボトル入り緑茶飲料の消費は平成17年まで急増したが、18年以降は減少から横ばい。
- 輸入量は平成16年に緑茶飲料向けとして急増したが、その後、緑茶飲料用原料の国産割合が高まったことから、輸入は減少。
- 米国等における日本食ブームの影響等により、輸出は10年間で3倍に増加。輸出先国としては、米国が全体輸出量の約半分を占める。

○1世帯当たりのリーフ茶消費量の推移



資料：総務省家計調査

○清涼飲料等の消費量の推移



資料：(社) 全国清涼飲料工業会

○緑茶の輸出入の推移

年度	輸入量 (t)	輸出量 (t)
平成13年度	17,739	599
14年	11,790	762
15年	10,242	760
16年	16,955	872
17年	15,187	1,096
18年	11,254	1,576
19年	9,591	1,625
20年	7,326	1,701
21年	5,865	1,958
22年	5,906	2,232
23年	5,393	2,387
24年	5,473	2,351

資料：財務省通関統計

○主な輸入先国・輸出先国（上位5カ国・平成24年）

	中国	オーストラリア	ベトナム	ブラジル	ケニア
輸入量(t)	4,13	26%	25%	7%	6%
シェア	85%	5%	5%	2%	1%
	アメリカ	台湾	シンガポール	カナダ	タイ
輸出量(t)	1,12	26%	25%	14%	11%
シェア	48%	11%	11%	6%	5%

資料：財務省通関統計(24年1月～12月までの集計)

(株)流通サービスが取り組んでいる解決方法

- 流通サービスでは数年前より、煎茶から抹茶の生産へとシフトを初めています。
- 具体的には
 - 高品質てん茶を作る為、棚掛け遮光栽培
 - 遮光用品種への植え替え
 - 海外の農薬基準に適合する為、有機・無農薬栽培
 - てん茶工場を2007年に開設
 - 海外への販路開拓をして現在40ヶ国に販売

棚掛け栽培



(参考) お茶の種類

参考:農林水産省 茶をめぐる情勢 平成25年9月参照

種類	特徴及び主な産地	荒茶生産割合及び 荒茶価格(H23年)
 せん茶	[特徴] ・最も一般に飲まれるお茶。新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。 [主な産地] ・全国	[生産割合] 65% [荒茶価格] 1,590円/kg
 ぎょくろ 玉露	[特徴] ・棚を用いて藁や寒冷紗などで、収穫前20日前後の被覆栽培を行い、煎茶と同様に製造。 [主な産地] ・京都府、福岡県	[生産割合] 0.3% [荒茶価格] 5,541円/kg
 かぶせ茶	[特徴] ・藁や寒冷紗などで、収穫前1週間程度の被覆栽培を行い、煎茶と同様に製造。 [主な産地] ・三重県、佐賀県	[生産割合] 4.2% [荒茶価格] 1,803円/kg
 てん茶 (抹茶)	[特徴] ・玉露より長い収穫前3週間～1ヶ月程度の被覆を行い、茶葉を揉まずに乾燥して製造。 ・てん茶を石臼で挽いて粉状にしたものが「抹茶」。 [主な産地] ・京都府、愛知県	[生産割合] 1% [荒茶価格] 3,543円/kg
 たまりよちや 玉緑茶	[特徴] ・煎茶の製造方法と異なり、最後に形を細長く整える工程がないため、茶葉の形が丸みを帯びている。 [主な産地] ・佐賀県、長崎県、熊本県	[生産割合] 3.0% [荒茶価格] 1,540円/kg

資料：荒茶生産割合及び荒茶価格（全茶期）は全国茶生産団体連合会調べ。

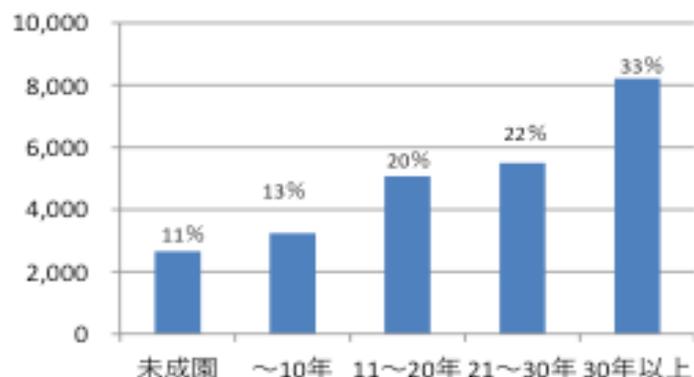
参考：玉露、かぶせ茶及びてん茶を称して「おいしい茶」という。

品種の植え替え



- 茶園の約3割が、樹齢30年以上と老園化し、収量、品質の低下が懸念。
- 栽培されている茶の品種は「やぶきた」が8割を占め、摘採期が集中することによる荒茶加工作業の集中化と摘み遅れによる品質低下、お茶の風味が画一化するなどの弊害。
- このため、平成23年度より改植後の未収益期間への助成、24年度より改植に係る掛かり増し経費への助成を実施。

(ha) ○ 樹齢別の茶園面積 (平成23年度)

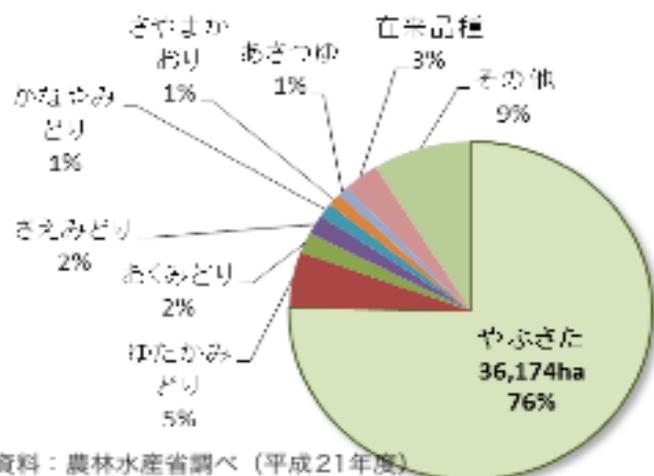


資料：農林水産省調べ

○ 改植の意義・メリット

- ・ 茶園の若返りによる 品質・生産力の向上 が期待 (老園化した茶園においては、根系の老化、土壌の保肥力、保水力の低下により、品質・収量が低下)
- ・ 優良品種の作付けによって、付加価値を高め 新たな需要を創出 することが可能
- ・ 作期の異なる複数の品種を組み合わせることにより、気象災害リスクの軽減や収穫・加工作業の集中化を回避。

○ 品種別の茶園面積



資料：農林水産省調べ (平成21年度)

○ お茶の改植等支援事業の仕組み

<改植に要する経費に対する支援> 12万円/10a

<未収益期間に対する支援>

- ・ 改植 : 4万円 /10a × 改植の実施年から3年分
- ・ 台切り : 3.5万円/10a × 台切りの実施年から2年分
- ・ 棚栽培 : 4万円 /10a × 棚栽培転換の実施年から1年分

(注：面積単価× 支援年数の金額を初年度に一括交付)

てん茶工場



海外への販路開拓



茶畑ソーラーの建設事例

- 1) 第二プラント 発電事業者＝生産者＋地権者
 - － 農家さんが自己投資で行ったモデル

面積：1反 設備容量：50kw
架台高さ：2.5m
年間予測発電量：58,000kwh

設備単価：約1,800万
全量買取固定価格：36円×20年
想定設備投資回収：7～8年



茶畑ソーラーの建設事例

- 1) 第三プラント 発電事業者＝生産者 耕作放棄地再生
 - 生産者が耕作放棄地を借り受け改植。乗用機が入れるように設計。

面積: 2反 設備容量: 100kw
架台高さ: 3m 支柱幅 2、8m
年間予測発電量: 116, 000kwh

設備単価: 約3, 600万
全量買取固定価格: 36円 × 20年
想定設備投資回収: 7～8年



茶畑ソーラーのメリット

- 早い時期に導入したため投資費用の回収が早い。
- ソーラーの棚を使って自動遮光装置の設置。
- 気候変動を受けないで栽培できる。
(霜害, 干ばつ等を受けない。)
- 海外バイヤーから高い評価をいただいている。
- カーボンニュートラル推進により様々な企業からのコラボの申込がきている。